

..... 編集後記 .....

◆ 白嶺丸特集は今月号でその3になります。3号合わせて、随分沢山の方々にご寄稿いただきました。大変有り難うございました。海洋研究所の玉木さんからいただいた原稿には編集後記で触れようかと思っていたのですが、その原稿の最後の印刷ページが大きく空いたので、玉木さんの原稿にまつわるお話を書かせていただきました。

◆ 白嶺丸は、1990年から地球環境の調査にも従事するようになりました。特集号の原稿として、鈴木さん、川幡さんが書かれています。サンゴ礁は二酸化炭素の吸収源なのか、あるいは放出源なのか。グレートバリアリーフでの調査航海により得られた結論は、放出源である、ということだそうです。お二人の興奮をどうぞ読み取って下さい。

◆ 有珠火山の噴火活動は2ヶ月を超え、活動は小康状態が続いています。所内の有珠火山噴火対応チームも、毎日の打ち合わせ会議から週1回の連絡会議へと、徐々に臨戦体制を解除しつつあります。有珠山のお膝元、北海道支所から、支所をあげて対応した有珠火山観測の状況を、宝田さん、羽坂さんに書いていただきました。先頭に立って奮闘されている太田支所長からは、産学官連携は個人レベルからでも積極的に進めましょうという、巻頭エッセイの原稿をいただいております。その他、北海道支所で、これも支所をあげて製作中の「北海道地質ガイド」の予告編を、グラビアとしていただきました。

◆ 有珠の噴火に関連して、噴火直前に伊達市内の

井戸から地下水が自噴する現象が観察されました。地震地質部の佐藤さんほかは、マグマの動きに伴う地殻の変形に起因する可能性、すなわち噴火の前兆現象である可能性を論じています。

◆ 地質調査所発行の地質図類は基本的には多色刷りですので、新刊地質図の紹介にはできるだけグラビアページを使いたいと思っていました。そのため、新刊地質図特集号とはせずに、各号に分散すればグラビアのカラーページを使った地質図紹介がしやすいと考えました。ところが、最近はグラビアをセットにした「特集」が多く、せっかくの新刊紹介が後回しになってしまいました。著者の皆様だけでなく、今回紹介している新刊を本号で初めて知ったという方がおられましたら、遅れてごめんなさい。お詫びいたします。

◆ 先月号の編集後記に「公園の中より住宅街の方が鳥が多い、それは森の梢と住宅街の街路樹の高さの違いが関係ある」というようなことを書きました。舌足らずでした。森の木は背丈が高く、その頂部に止まって鳴く鳥は下からは良く見えませんし、反対に住宅街の街路樹は背丈が低いので、そこを飛び回る鳥は見えやすい、単純にそういうつもりでした。しかし、今朝、昨夜来の雨があがって、公園の路に水たまりが出来ていて、そこをセキレイや雀が地面をつつきながら走り回っていました。こんな天候の変化も、見えやすさを演出しているのかも知れません。

(湯浅真人)

地質ニュース編集委員会

委員長：湯浅真人

副委員長：石井武政

委員：星住英夫・飯笹幸吉・七山 太・佐々木宗建  
佐藤興平・大熊茂雄・前川竜男・木下泰正・  
中野 司・遠藤祐二

事務局：総務部業務課広報係（河村幸男・渡辺光次）

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-3

地質調査所 地質ニュース編集委員会

事務局 Tel. 0298-61-3520

Fax. 0298-61-3569

地質ニュース	第551号	2000年	7月号
	定価¥785(本体価格¥748)	〒実費	
2000年7月1日	発行		
編集	工業技術院地質調査所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel. (03) 3265-0951(代表)		
	Fax. (03) 3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

© 2000 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターおよびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ